

- 01 聞こえにくさを感じたら
ノロウイルス食中毒の予防
2病棟紹介
- 02 2病棟の子どもたちの生活のひとコマ
やまばとギャラリー情報コーナー
1病棟のせいかつ
- 03 5病棟の生活のひとコマ⑧
通所支援事業のひとコマ
第7回 日本アレルギー学会
働き方改革推進奨励賞を受賞して
今月の“みえツウちゃん”
- 04 病院からのお願い／外来診察のご案内

聞こえにくさを感じたら



だんだん歳をとって“最近聞こえにくくなってきたかな、補聴器をどうしようかな”と考えるようになったら皆さんはどうしますか？

日本での補聴器のイメージはあまり良いものではないかもしれません。

補聴器購入者の満足度は欧米では70～80%程度ですが、日本は先進国の中で最も低く、50%です(JapanTrak 2022)。どうしてでしょうか。自分に合ったよく聞こえる補聴器にするためには、聴力検査を行い、その結果から補聴器を選んで調整し、調整した補聴器を装用し実際の効果を判定、これを繰り返しながら合わせていくことが大切です。この調整には高い専門性が必要ですが、残念ながら日本ではあまり知識がない業者によって補聴器が販売されていることが少なくありません。

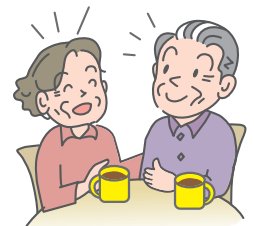
耳から入った音の情報は脳まで伝わって認知することができます。つまり音を聞いているのは脳なのです。脳は聞こえの感度の調整を行っており、周囲がうるさいと感度を下げ、周囲が静かだと少しでも音を聞き取ろうと感度を上げます。難聴の方の脳は感度を上げているため、ここに補聴器で音を入れると最初はうるさく感じます。補聴器をつけていくうちに感度は下がりますが、難聴の期間が長いと感度の変化にも時間がかかります。

自分に合ったよく聞こえる補聴器にするためには、難聴者ご本人が専門家によって適合された補聴器をしっかり装用し音への感度を下げること(リハビリテーション)が大切です。この「補聴器の専門家」が補聴器相談医、認定補聴器技能者、言語聴覚士です。難聴者ご本人とともにこれらの専門家が連携することで、理想的な補聴器に近づけることが可能と考えます。補聴

器相談医とは日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会が補聴器の適正な普及のために作った制度で、一定の講習を受けた医師が認定されます。現在三重県では40数名の相談医が活動しており、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会ホームページから検索することが可能です。

補聴器は日々進化しており、補聴器相談医、補聴器技能者、言語聴覚士それぞれのスキルアップが大切です。2022年から“耳鼻いんこう科医、言語聴覚士、補聴器技能者、市民が集い、世の中の補聴器事情の改善に向けて模索、啓発する機会を作る”という主旨で、愛知、岐阜、三重の三県合同で“補聴器フォーラム東海”を開催しています。第1部、第2部は専門家のための講習会、第3部が市民講座、第4部が補聴器相談会となっています。今年度は11月26日(日)に行われ、市民講座では“難聴者が補聴器を満足して使用するためには”というタイトルで講演があり、事前に頂いた参加者からの質問に回答する時間も設けられました。また第4部の補聴器相談会では、補聴器メーカーのブース見学や個別相談も行われました。第3回となる補聴器フォーラム東海2024は2024年11月17日(日)にウインクあいちで予定されておりますので、興味をお持ちの方はぜひご参加ください。(以下のURL、QRコードからホームページを参照できます)

聞こえにくさを感じたら……
そんな時はまず耳鼻咽喉科、
補聴器相談医を受診しましょう！
(耳鼻いんこう科 白井智子)



補聴器フォーラム東海2023
(hochoukiforumtokai.jp)